

# 博物館だより

No.5

平成18年9月1日

みやこ町歴史民俗博物館発行  
福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13  
TEL 0930-33-4666  
FAX 0930-33-4667

常設展示テーマ展

## 「みやこ」の古代寺院

8月29日～10月29日

当館では、8月29日(火)から10月29日(日)まで、みやこ町の古代寺院をテーマとした常設展示テーマ展「みやこの古代寺院」を開催しています。

みやこ町には次の五つの古代寺院跡があります。

### 豊津地区

上坂廃寺(県指定史跡)

豊前国分寺(国指定史跡)

国分尼寺(町指定史跡)

### 犀川地区

木山廃寺

### 勝山地区

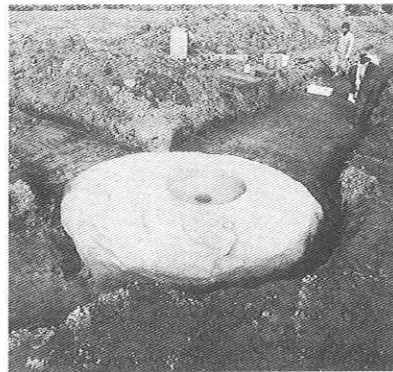
菩提廃寺(県指定史跡)

いずれも七～八世紀頃(白鳳～奈良時代)に建立されたものが、これだけの古代寺院が一つの町に集中しているのは、全国的にも稀なことです。

今回のテーマ展では、これら「みやこ町」の古代寺院から出土した古瓦を中心に、各寺院跡出土の遺物を展示しています。みやこ町上坂廃寺や豊前国分寺に瓦を供給した船迫窯跡群(築上郡築上町・国指定史跡)から出土した鴟尾なども展示しています。

新生「みやこ町」を

上坂廃寺 塔心礎



代寺院は一つのキーワードになります。ぜひ、来館ください。

### 【開催期間】

平成18年8月29日(火)～10月29日(日)

### 【開催場所】

みやこ町歴史民俗博物館展示室

### 【観覧料】

常設展観覧料のみいただきます。

## 『勝山町史』の案内

平成17年度に旧勝山町が刊行した『勝山町史』を町史編纂室(サングレイトみやこ内)および当館にて販売しています。「みやこ町」の歴史と文化を知る一助に、

ぜひ、ご購入ください。

### 【頒布価格】

上・下巻 1セット4000円

### 【購入方法】

次のいずれかの窓口で直接ご購入ください。遠方の方は当館まで電話にてご相談ください。

みやこ町役場本庁横 サングレイトみやこ内 町史編纂室

(☎0930・32・4811)

みやこ町歴史民俗博物館

(☎0930・33・4666)

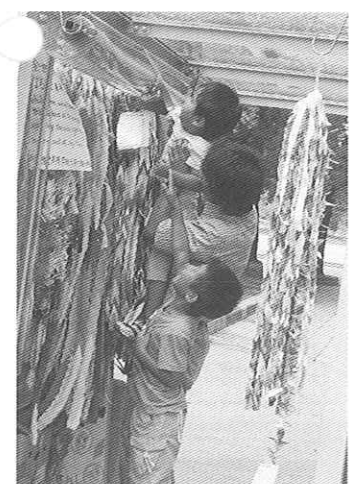
なお、町史編纂室は9月30日で閉じますので、以後は当館での取り扱ひとなります。

### ●『勝山町史』を

すでにご購入済みの方へ●

『勝山町史』の正誤表ができましたので、受領希望の方は町史編纂室または当館までお越しください(正誤表の代金は無料)。

## ご協力ありがとうございました



当館企画展「ORIGAMI」～伝統と幾何学の世界～期間中、当館および町内各図書館で来館者の方に折っていただいた千羽鶴(1048羽)は、去る8月15日に広島平和祈念公園に献納致しました。ご協力ありがとうございました。



8月16日～8月28日、島根大学3回生の栗焼美里さんが当館で博物館実習を行いました。現在開催中のテーマ展「みやこの古代寺院」の準備などにたずさわっていただきました。

みやこの「お宝(文化財)」拜見⑤

国指定重要文化財

# 永沼家住宅

【所在地】京都府みやこ町犀川帆柱721  
 【所有者】みやこ町在住個人  
 【規模・構造】桁行約18m・梁間約10m  
 入母屋造り・茅葺き・直屋

## 永沼家住宅の位置と環境

永沼家住宅は、約一六〇年前の天保年間に建てられた民家で、修験道の山として名高い英彦山の麓、現みやこ町帆柱地区(旧仲津郡帆柱村)に所在します。帆柱地区は祇川(英彦山麓から北流して周防灘に注ぐ流域では最上流の村ですが、旧築城郡・田川郡・下毛郡に境を接する場所にあり、山越しの道を通



▶国指定重要文化財 永沼家住宅

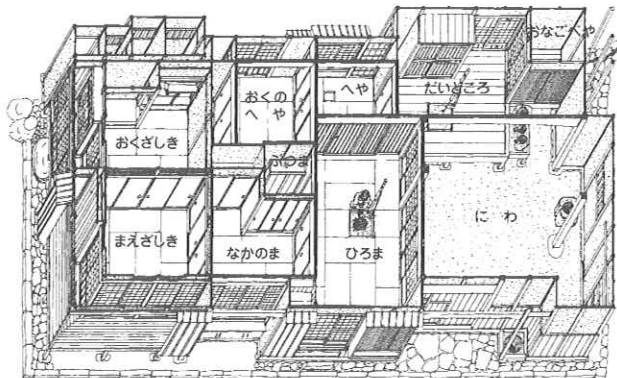
通じて人々の行き来が盛んな村でした。とくに、北部九州の経済拠点・天領日田(現大分県日田市)との往来においては、その通過点として重要な位置にあったようです。

永沼家は、中世から帆柱の中心的な存在であったといい、江戸時代に入ってから、帆柱村や近隣村の庄屋をつとめました。また小倉藩では、十数か村をまとめて「手永」という行政区を設け、その統括者に「大庄屋」を置きましたが、永沼家の当主の中には仲津郡節丸手永(現みやこ町犀川・豊津地区の一部)の大庄屋をつとめた人もいました。



▶永沼家文書「家建諸控帳」

## 永沼家住宅の間取り



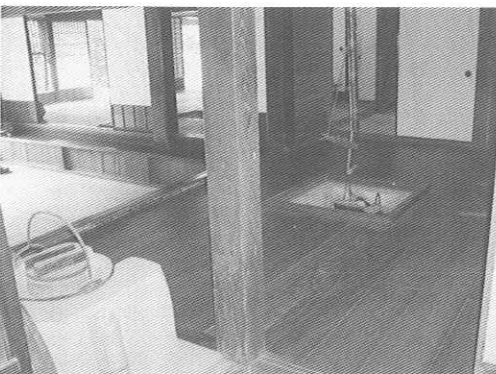
## 永沼家住宅の建設

永沼家住宅の建設については、「家建諸控帳」という古文書が残されていて、建設過程を詳しく知ることができます(ちなみに、この「家建諸控帳」も建物に付随して国重要文化財に指定。それによると、永沼家住宅の建設が始まったのは、天保十年(一八三九)からで、地元からはもちろん、槻木村(中津藩)や日田、玖珠(森藩)、さらには広島

からも大工などの働き手が集められたことが分かります。材木の伐り出し、旧宅の取り壊し、地均し、基礎づくりと工事は進み、

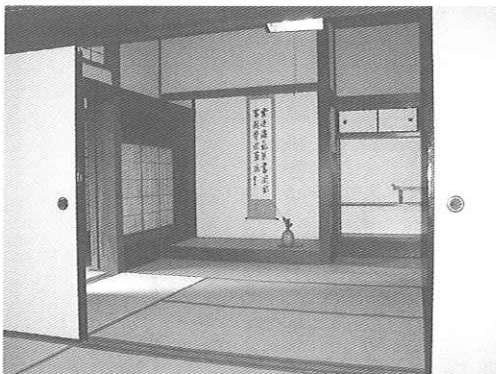
げが行なわれたのは天保十一年(一八四〇)三月十七日(新暦四月十九日)でした。この日は、百二十名が棟上げのお祝いに招かれ、直線距離で約二十キロメートルも離れた上毛郡宇島(現豊前市)で購入した、タコ・エイ・エビ・イカを使った魚料理などが振る舞われました。奥深い山村で、海産物をふんだんに使った料理を用意する。これはたいへん贅沢で豪華なご馳走だったに違いありません。

ちなみに、この時の永沼家当主は永沼仁助(生年未詳・一八五四)という人で、家建てが行なわれた頃は、帆柱村のほか、近隣の扇谷村・上伊良原村の庄屋を兼務していました。後には節丸手永子供役(天庄屋の補佐役)を勤め、嘉永三年(一八五〇)には同手永大庄屋に就任しています(嘉永四年に一時退任後、翌



▶台所から広間をみる

## 奥座敷(客間)



嘉永五年に再度節丸手永大庄屋となる。

## 永沼家住宅の解体修理

建設後約百五十年が経過した昭和六十二年(一九八七)、永沼家住宅の全面解体修理が、国・県等の補助を受けて行なわれました。三年がかりで行われた修理では朽ちた材木を取り替えるとともに、天保時代に建設された当初の形が復元されました。また、解体修理ともに行なわれた調査により「家建諸控帳」では知りえなかった工事の終了時期が、天保十二年であったらしいことなどが分かりました。

なお、永沼家住宅は「永沼家住宅保存協力会」の皆さんのご協力により、3月中旬から12月上旬の毎週日曜日に、建物内部が公開されています。ぜひ一度見学にお越しください。